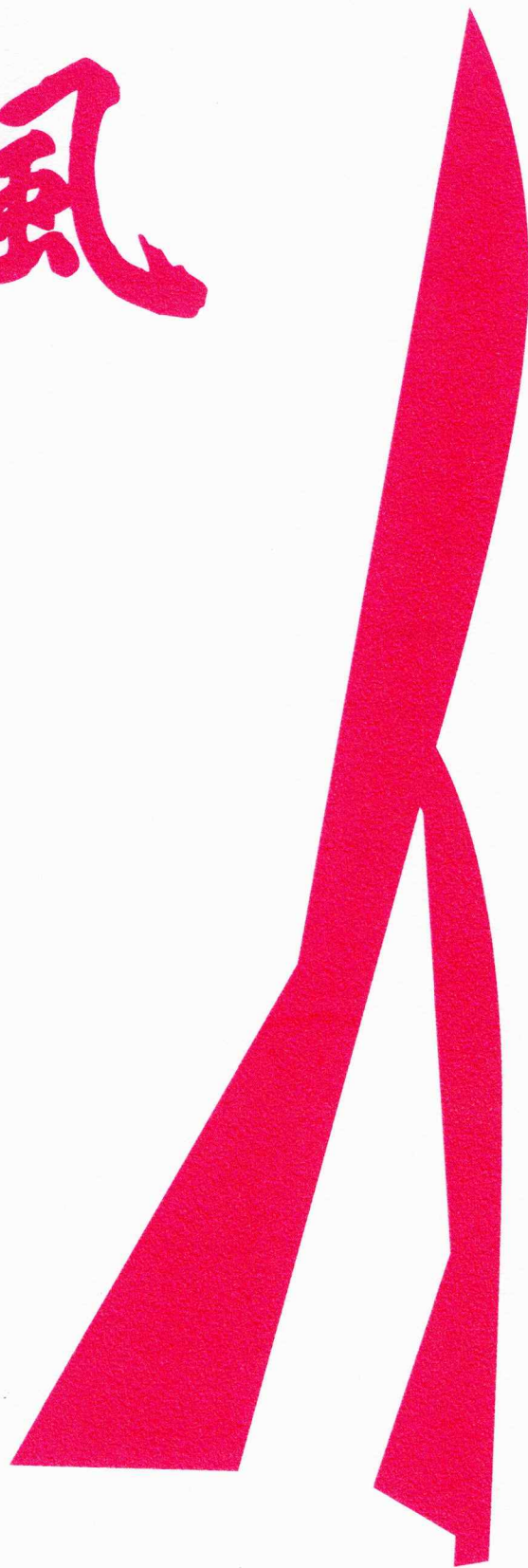


琴風

第51号

長崎大学ヨット部



目 次

1	会長挨拶	肥田 剛一
2	新緑の候（顧問挨拶）	佐藤 克也
3	顧問退任挨拶	林 日出喜
4	主将挨拶	小倉 直人
5	収支報告	
6	阿南・矢津田メモリアル基金とバラモン基金	
7	NATIVE DANCER F-40 の軌跡	福田 豊
8	近況報告	土井克博・江口和哉・島崎勲 中尾剛規・村井清文・森一浩・池田まゆみ・大熊典子 田井隆之・藤井崇博・小針美樹・齋藤謙太
9	関東支部会	楠本 圭祐
1 0	部員名簿・大会成績	
1 1	部員名簿・活動報告・大会成績表	
1 2	琴風会会則	
1 3	住所録	
1 4	編集後記	

令和6年6月1日

長崎大学ヨット部
琴風会会員の皆様へ

長崎大学ヨット部
琴風会会長 肥田 剛一

令和5年度琴風会活動報告

会員の皆様には日頃より琴風会活動にご理解、ご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、昨年は令和5年9月9日（土）に70周年記念琴風会総会を「サンプリエール長崎」様で開催させていただきました。全国はもとより海外からも含め、総勢84名の会員様にご参加いただき、総会は大いに盛り上がりました。2次会は、八幡さんご推薦の「オルテンシア長崎」様で、おしゃれな女性のピアノ伴奏のもと、全員で「カプリ島」を合唱するという素敵な思い出作りができました。今年も令和6年9月7日（土）に琴風会総会を計画しています。たくさんの会員様と子々川での思い出を語り合い、笑い転げたいと思います。

また、各支部会でも旧交を温められています。関東支部会からは、令和6年1月20日（土）「アルカディア市ヶ谷」様での支部会開催のご報告がありました。当日は、江口さん・楠本さんのお声かけにより、盈さん、八幡さんの参加をはじめ多数の会員様が参加され、大いに盛り上がったとのことです。綾部さんからは、関西支部会開催の計画も受けています。全国各地で思い出を語り、熱きヨット部での青春のアルバムを、皆様で開いていらっしゃるとのことです。藤原さんからは、現在ヨット部学生時代のメンバーを訪ね歩く旅をされているとお聞きし、その海の香りの情熱に胸を熱くしています。

また、マリクリエイト様主催のヨット部部長交代謝恩会にも参加させていただきました。当日は、ホテルニュー長崎「ハイドロレンジャー」様で林部長様のご勇退、そして佐藤新部長様のご就任に、みんなで感謝の気持ちを伝えました。琴風会からも細やかですが、記念品を贈らせていただきました。

現役諸君もOBのみなさんのお声かけにより頑張っています。昨年9月九州インカレ470級3艇出場に始まり、今年3月は長崎大学が主管となり、福田サンセットマリーナで九州学生新人ヨット選手権を開催するに至りました。この大会では470級に3艇出場し、団体戦2位という快挙を成し遂げてくれました。まさに、今年の目標「古豪復活」です。応援いただいているOBのみなさんのサポートが実を結んだものと思います。

さいごに嬉しいご報告です。今年もたくさんの新入生が新歓クルージング、BBQパーティーに参加してくれました。その際、送迎や監視艇、パーティーにたくさんのOBの方々が、応援そして参加してくれました。本当にありがとうございました。おかげ様で、今年もたくさん新入部員が入ってくれました。そこで、6月15日（土）に新入生歓迎コンパを計画しています。OBの皆様の参加を楽しみにお待ちしております。

それではさいごに、会長としての誓いを述べさせていただきます。

「琴風会そして子々川は永遠に不滅です」

そのために、皆様との出会いに感謝し、絆を大切に守り育てます。

心はひとつ「カプリ島」 俺たちヨットマン！風と波の仲間です。



長崎大学ヨット部琴風会の寄稿文

新緑の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、令和6年度4月より長崎大学ヨット部琴風会顧問に就任いたしました佐藤でございます。この機会に、自己紹介と今後の抱負を述べさせていただきますたく存じます。

まず、私の経歴についてご説明申し上げます。佐賀県鳥栖市に生まれ育った私は、幼少期より自然豊かな環境で過ごし、スポーツに親しむ機会に恵まれました。その後、進学のため久留米大学附設高校に入学し、さらに勉学に励みました。1989年、長年の夢であった長崎大学医学部への入学を果たし、新たな環境での学びに胸を膨らませたことを今でも鮮明に覚えております。

大学卒業後は、迷うことなく長崎大学医学部第1内科に入局いたしました。医師としてのキャリアを積む中で、さらなる研鑽を積むべく東北大学への国内留学の機会を得ました。東北の地で過ごした日々は、医学的知識の深化のみならず、人間性の涵養にも大きく寄与したと自負しております。帰崎後は、長崎大学医学部第1内科（神経班）の助教として教育と研究に従事し、現在の職に至っております。

私のスポーツ歴を振り返りますと、小学校から高校までは水泳部を主体としつつ、野球部やバスケットボール部にも所属し、多様なスポーツ経験を積むことができました。大学ではラグビー部に入部し、チームスポーツの醍醐味と仲間との絆の大切さを学びました。これらの経験は、現在の私の人格形成に大きな影響を与えており、スポーツの持つ教育的価値を深く認識する契機となりました。

大学在学中は、多くの素晴らしい先生方との出会いに恵まれました。特に、牛島先生には公私にわたり大変お世話になりました。先生のご自宅にお招きいただいたこと、ヨットにご一緒させていただいたことなど、かけがえのない思い出として心に刻まれております。こうした経験を通じ、師弟関係の深さと、それを育む大学という場の素晴らしさを実感いたしました。

この度の顧問就任は、長年琴風会を支えてこられた林先生のご退官に伴うものです。林先生の長年にわたるご尽力に対し、心より感謝申し上げますとともに、その意志を引き継ぎ、さらなる発展に寄与できるよう全力を尽くす所存でございます。

就任にあたり、学生たちと真摯な対話を重ねてまいりました。その結果、長崎大学ヨット部琴風会の今後の方針として、以下の二点を掲げることいたしました。

1. 全日本大会に通用する学生の育成 競技力の向上は、部活動の大きな目標の一つです。技術指導はもちろんのこと、メンタル面でのサポートも充実させ、全国レベルで活躍できる選手の育成に力を注いでまいります。
2. 生涯にわたる絆を育む環境の構築 ヨット部での活動を通じ、部員一人一人が「入部して良かった」と心から実感できるよう努めます。先輩・後輩、同期との絆を深め、生涯にわたる人間関係を築ける場となることを目指します。

これらの方針を実現するためには、様々な課題に直面することが予想されます。現在、帝大以外の多くの大学において、部活動の運営は非常に厳しい状況に置かれております。長崎大学も例外ではなく、部の運営予算がほぼ皆無となっているのが実情です。このような状況下で部の存続と発展を図るためには、琴風会OBの皆様方からの温かいご支援が不可欠でございます。

つきましては、OBの皆様との密接な連携を重視し、定期的な情報交換や意見交換の場を設けるなど、より開かれた運営体制の構築に努めてまいります。また、ご寄付をいただいた先生方への特典制度の創

設なども検討しており、具体的な内容につきましては追ってご案内させていただく予定でございます。
未だ若輩者の私ではございますが、一個人として日々研鑽を積み、長崎大学ヨット部琴風会の更なる発展に全身全霊を捧げる所存でございます。OBの先生方、現役部員、そして関係者の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

最後になりましたが、長崎大学ヨット部琴風会の輝かしい伝統を受け継ぎ、さらなる高みを目指して邁進してまいります。皆様方の変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。
末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

敬具

令和6年4月吉日 長崎大学ヨット部顧問 佐藤 拝

ヨット部顧問の引継ぎ

長崎大学ヨット部の皆様、短い間でしたが、江石先生より顧問を引き継ぎ、本年4月からは新たに佐藤先生にお願いできました。佐藤先生はラグーマンで、大きな体にいつも笑顔たたえたおおらかな人柄が魅力です。また、旧知のヨット部OBの方もいらして、今後のヨット部の活動を大学側からサポートするだけでなく、幅広くヨット部を支援してくれると思います。

私が顧問を引き継いだ時はコロナ禍で、ヨットに乗ることも充分できない状況でしたが、その中でもたくさんのOB/OGの皆様のあたたかいご支援をいただき、昨年はヨット部創設70周年を迎え、現役部員ともたくさんのヨットの話ができ、微力ながらもヨット部に貢献できたのは、ありがたいことでした。しかしながら、コロナが落ち着いてくるや、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ侵攻等、暗いニュースが続く、若い学生の皆さんは大学での授業、課外活動の意義について悩むこともあったのではないのでしょうか？人生に大いに悩み、もがきながらも、勝利に向かって競技をする、海、風、波という大自然の中に身を置く、仲間と共に過ごす、先輩にお酒や食事をおごってもらう等、いろいろな経験を積みながら、自分の夢を追いかけることができる、反社でない限りは何でも受け入れてくれるおおらかなOB/OGがたくさんいるのが長崎大学ヨット部の魅力です。ある大先輩が大学でのクラブ活動は、自分がOB/OGになってから、ああ、あの頃いろいろ悩みながらもヨットに乗り続けてよかったなあと思えばいいんじゃないか、とおっしゃっていました。私自身も、春先のあの冷たい大村湾の海で、全身波をかぶりながらも仲間と一緒にヨットに乗り、凍え切って無事子々川に着艇した時、白波立つ海での練習を心配した海の家管理人のおばちゃんが入れてくれた温かいお茶をみんなでありがたくいただいたことは、いまだにいい思い出として鮮明に覚えています。

最後になりますが、ヨットは一般的なスポーツと違い、自然の脅威も忘れてはならないことです。現役の皆さんは、ぜひ、自然の素晴らしさを実感しながらも、海での安全確保を常に考えてヨットを楽しんでください。OB/OGの皆様、あたたかいご支援、ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

前長崎大学ヨット部顧問 林日出喜

部長挨拶

琴風冊子をご覧の皆様こんにちは。日頃からお世話になっております。長崎大学ヨット部部長の小倉直人です。今年で部長2年目を迎え時の流れの早さを感じる今日この頃です。今こうして琴風冊子を書いていると去年書いた時よりも思うこと、書きたいことが多々ありますので、長文となるかもしれませんがあらかじめご容赦ください。（笑）

まず私事です。近況報告からさせていただきます。今年も無事進級することができ、早くも4年生となりました。4年生なんて遥か遠い未来の話だと思っていたのに気づいたら4年生となってしまう、だんだん引退が近づいてくるのを日々感じます。今まで後輩目線から見た4年生は日々研究などでヨット部に来る日も減っていたので「そんなに4年生忙しくないだろ！（笑）」と思っていたのですが、いざ4年生になると研究に勉強にこんなに忙しくなるとは思いませんでした。先輩方生意気言って申し訳ございませんでした m(_ _)m

自分も残すところ九州インカレ個人戦・団体戦、国体となり後悔なく4年間を終われるような何とか時間を作り練習に来られるよう日々奮闘しております。最近あった大会の報告となりますが3月末に新人戦があり、そこではなんとか上位艇団の後ろに食らいつけるようになり今までの練習の成果が出たなと思ったら西インでは再び差が開き、一喜一憂しております。正直このまま九インに出るのは不安しかないのが最近の私でございます。ですが残り少ない日々やれる事はやって悔いなく大会に臨みたいと思います。そしていい報告が出来るよう精進して参ります。

次に長大ヨット部の変化について話していきたいと思います。この前の新人戦では子々川で九州大学さんと宿泊したり、貝原さんの助言もあり西インでは3日前入りをし、日本経済大学さん、鹿屋体育大学さんと合同練習を行うなど他大学と関わる機会が増えたように感じます。私目線ではございますが長大ヨット部のレベルは近年上がっていると思います。それは過去の先輩方が積み重ねてきたものであり、選手個人の能力、船への理解の向上によるものだと思います。僭越ながら現在の長大ヨット部では自分が1番早く走れる自信はあります。しかしそれでも九州内で見たらまだまだ下の方であり、上を目指すならばやはり自分達より速い大学と交流し、知識を吸収することが長大ヨット部をもう1つも2つも上の段階へ押し上げる事だと思いました。確かに自分達のレベルで速い大学の練習に飛び込むのは勇気がいる事だと思っています。しかしその壁を乗り越えないといけなくと感じ、実際今回の合同練習なども上手く行ったように思えます。また金城先輩のおっしゃっていた「ヨット上手い人は見た目怖いけど教えて頂く時めっちゃめっちゃ優しいから！」というのが分かった気がします。（笑）なのでこれからも他大学との交流は絶やさずにいけたらなと思いました。

3つ目は新歓についてです。今年も無事新歓が終わり元気でうるさく生意気な可愛い1年生12名（留学生2名？）が長大ヨット部に入ってくださいました😊金銭的支援をしてくださったり、車の送迎をお手伝いしてくださったOB,OGの皆様、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。毎年新歓のシーズンを迎えると「今年もたくさん入るかな」とか「ヨット好きになってくれるかな」など様々な気持ちに駆られたりします。なので毎年入ってくれた新入生たちにはヨットの楽しさや魅力を最大限伝わるように運営しておりました。またそれと同時に自分が1年生だった頃も思い出したりしてあの頃はコロナ禍で新歓もかなり制限されていた時代だったので今と比べて沢山のことを考慮しつつ自分達にヨットを楽しんでもらえるよう頑張っていた先輩方には頭が上がりません💦さて、今年も10人以上入って下さり新歓は大成功と言える結果となりました、、、が大事なのはここからでどれだけ1年生を残せるかだと思っています。そのためにはヨットの楽しさだけでなくやはり同期や先輩との仲を深めれるかに掛かっていると思います。なので私の役目としてまず自分が楽しく乗ってる姿を後輩たちに見せてあげること、1年生の面倒を徹底的に見ることだと思います。そうすれば後輩たちも感化されてヨットに乗ってるうちに「楽しい」と思ってくれると信じています。1年生に「あの時は楽しかった」と思わせず「常に楽しい」と思わせるよう自分の出来ることは精一杯やっていきたいです。またこれは私事ではございますがやはり引退する時に前を走って「小倉先輩速かったよな」、「小倉先輩に負けてられない」と思わせられるような、そんな姿を見せて引退するのが僕の目標の1つです(笑)そのためにはもっと練習して上手くなります💪

最後に自分が今こうしてヨット部について書いていられること、大会に出られていること全てはOB,OGさんの多大なるご支援があつてからこそです。引退した後の事を考えると泣きそうになるのであまり書きたくありませんが、私が部長をやっていてそれでも付いてきてくれた後輩たちには感謝しかありません。なので自分もまだまだ残り少ない現役生活でございますが自分の出来ることは精一杯取り組み悔いの残らないヨット部生活を送りたいと思います。また引退した後、後輩たちに自分が今までして頂いたこと、自分が4年間で得たものを少しでも還元し、楽しくヨットを乗れる環境を整えられたらなと思います。

今後とも変わらぬ温かいご声援、ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。
拙い文章でしたが最後までお付き合いいただきありがとうございました。また子々川でお会いできる事、心よりお待ちしております。

工学部4年 小倉直人

2023年度 琴風会収支報告

【収入】

	内 訳	金額(単位:円)	摘 要
I	年会費	435,000	87名
II	阿南・矢津田基金	664,000	54 名
III	広告費	260,000	12 件
IV	預金利息・払い戻し	4,584	
V	前年度繰越金	193,001	
	収入合計	1,556,585	

昭和 35 年～昭和 56 年入部 112 名中 64 名入金 1,159,000円

昭和 57 年以降入部 143 名中 23 名入金 115,000円

【支出】

	内 訳	金額(単位:円)	摘 要
I	通信費	118,945	「琴風」送料・振込手数料・その他 ホームページ経費
II	印刷代	155,265	「琴風」
III	学生へ援助金	714,810	新入生勧誘費用 艇運搬・整備備品等
IV	活動費(慶弔費)	25,410	
V	70 周年新艇購入費	返済金 0	2022 年100万円借り入れ
	支出合計	1,024,430	

差引残高	¥532,155	2024 年 3 月 31 日現在 次期繰越金へ
------	----------	--------------------------

医療法人 江上耳鼻咽喉科・めまいクリニック 長崎市銅座町 2 - 15NK イリスビル 3F No.64 江上 徹也 S35 入学	西山 医院 広島県山県郡安芸大田町中筒賀 1556 - 1 No.70 西山 英行 S36 入学	掲載広告募集
株式会社 鍋 島 福岡市博多区吉塚 4-6-12-208 No.92.93 田中修一・光代 S41 入学	税理士法人波多野アンドパートナーズ会計事務所 長崎市万才町 6 - 35 - 2F No.100 波多野 徹 S42 入学	医療法人 福田ゆたか外科医院 長崎市浜口町 3 - 5 No.116 福田 豊 S43 入学
医療法人 勝本 外科 日 帰 り 手 術 ク リ ニ ッ ク 北九州市小倉北区足立 2 - 1 - 10 No.131 勝本 富士夫 S45 入学	医療法人 福田ゆたか外科医院 長崎市浜口町 3 - 5 No.116 福田 豊 S43 入学	みつる公認会計士事務所 福岡市中央区荒戸 2 丁目 1 - 8 No.137 盈 辰博 S47 入学
漢方薬局 たんぽぽ 筑紫野市筑紫 7-1 弁入ビル 1F No.153 長田 理恵子 S49 入学	Eco People 福岡市城南区七隈 1-5-18 No.189 原 佳伯 S53 入学	肥田塾 数学専科 諫早市真崎町 836-5 No.189 肥田 剛一 S56 入学
オーケー薬局 長崎市銅座町 2-15NK イリスビル 1F -	カサマツ薬局 諫早市山川町 1-5 No.110 S43 入学	マリン薬局 長崎市浜口町 3-16 わかば薬局 佐賀県西松浦郡有田町大木宿乙 844-4 大間 賢一

本号も皆様の協賛により発行できました。
ありがとうございます。

数学専門


肥田塾

肥田塾

検索




090-8399-3916

皆で育てる「阿南・矢津田メモリアル基金」その 11



稲岡先輩アルバムより

2023 年度にご寄付をいただきました(入学年度順)

氏 名 一 覧

天野 実	浜口 孝	江上 徹	山口 俊明	川寄 滋	堀居 堅
前田 昌顕	八島 敏昭	佐野 義一	塚本 徳男	上田 健	田中 修一
田中 光代	宮崎 徹	中 恵子	福田 真理	大間 賢一	中村 道夫
福田 豊	田代 雅美	徳島 尚	稲岡 晴紀	細波 文男	土井 克博
藤原 久郎	勝本 富士夫	盈 勝博	佐々 和明	片木 敏彦	井手 稔
米原 浩一	八幡 和幸	龍尾 一信	長田 理恵子	荒川 敏明	荒木 秀一
乙吉 隆司	奥嶋 裕司	亀井 勝重	益本 智星	貝原 宗重	林 日出喜
原 佳伯	江口 和哉	中尾 剛規	綾部 洋一	宮崎 新治	大串 豊美
仁田原 司	大塚 一徳	神崎 修	畑田 英樹	肥田 剛一	田中 慎二
永富 和義	前川 清隆	中村 賢司	前田 貴裕	中村 真理子	池田 まゆみ
田井 隆之	田井 みのり	中島 貴史	矢頭 奈菜子	矢頭 宏一	日向 純平

記載もれがありましたら、是非、琴風会事務局：貝原までご連絡お願いいたします。

長崎大学ヨット部琴風会事務局 〒8528061 長崎市滑石 5-16-6 貝原宗重

① 火山レース参戦

2014 年 7 月 16 日 ネイティブダンサー F40 (以下 F4) はオール長崎チームを結成して、鹿児島カップ・火山巡り外洋ヨットレース、(通称・火山レース) に参戦した。



F4 は、FARR40 という艇で、有限会社マリクリエート琴風に所属するニュージーランド製のクルーザーだ。全長 40 フィート (12m)、マストトップまで約 22 m、メインセイルは 50 m²、フォアセイルは 38 m²、ジェネカーは 150 m² と大きなセイルを持ったレース艇である。2011 年にチームを解散した博多の Z I G Z A G から譲り受けた艇である。

火山レースは鹿児島県の錦江湾の奥、平川港の北側、桜島付近をスタートして南下し錦江湾を出て、薩摩硫黄島を回って帰ってくる、距離 110 マイルほどのオーバーナイトレースだ。鹿児島県内のみならず、九州各地、さらに全国から参加艇が集まる国内有数のレースである。長崎からは以前、HTB の鳳 (バルチック 40) が参戦している。

7 月 16 日、F4 は鹿児島へ向かって長崎サンセットマリーナ (NSM) を出発した。廻航のメンバーは、菊池、内村、浅川、白石、宮本の 5 名。菊池は水産高校 OB、クルーザー歴が長く、レース経験豊富、メカにも強くボースンと呼ばれた。長く VOLTAGE の主力メンバーとして活躍し、最近我々のチームに合流した男だ。内村は工業高校 OB で、高校時代はスナイプの国体選手、昭和 45 年の福田国体以来、長大 OB との親交があり、F4 のレギュラーメンバーとなった。浅川、白石、宮本はサンセットヨットクラブ所属の SEASPALLOW (メルゲス 32) のメンバー。浅川は沖縄などへの長期の単独クルージング経験が豊富で、オーバーナイトレースについての助言をもらった。

停留予定の枕崎港に夕方到着したメンバーは、係留後、女性で初めて単独世界一周の快挙を成し遂げた今給黎さんや、地元のオールドヨットマンと交流。温泉に入り、極上のカツオのたたきを食べ、焼酎をたらふく飲み、大満足で船中泊。後述するが、この交流が 2 日後のロングレース優勝のカギとなった。



翌 17 日朝、枕崎を出発して鹿児島県の平川ヨットハーバーまで廻航し係留した。その日の夕方、火山レースの開会式ならびに前夜祭があり、残りのメンバー、福田、塩脇が合流した。塩脇は SEASPALLOW のメンバーで、ヘルムスマンとしての経験が豊富で頼りになる男である。最後に合流したのが中山と女性看護師君。中山は関西で活躍するクルーザー乗り。ジャパンカップにも何度も出場している、若い一流のバウマンだ。森崎と親交があり、助っ人として参加。看護師君もプロ並みの人でした。これでチーム長崎の 9 人が揃った。

7 月 18 日、火山レースの 1 日目。平川港沖にマークを設置してのインショアレースが 3 レース行われた。10 数艇が参加。世界の BENGAL とも呼ばれた 55 フィートのレーサーも参加していた。BENGAL は蒲郡を母港とし、トランスパックやシドニー・ホバートなどの海外ビッグレースに何度も参戦した艇で、沖縄東海レースをはじめ国内の数々のオフショアレースでは負けなしという、日本で無敵のレーサーだ。ヘルムスマンは、日本の第一人者、高木裕さん、福大出身の元オリンピック選手である。バウマンの伊藝さんや原健さんなどの超一流のメンバーを多数そろえての参戦だ。

原健さんは、アメリカンカップに挑戦した、ニッポンチャレンジの元メンバーで、日本でもっとも有名なバウマンだ。1993 年のウィッドブレッド世界一周レースにもクルーとして参加し、トランスパックレース 2 回、シドニー・ホバートレースには 4 回参戦している。サッカーのユース日本代表も経験。朝日スーパードライの TV コマーシャルにもでた人で、BENGAL のレギュラークルーである。約 1 年前から塩脇さんの紹介で我々と親交があり、数回来崎され、ヨットの安全指導講習会を開催してもらった。また F 4 のゲストクルーとして HTB レースや五島灘横断レースにも参加、いろいろと指導してもらった。尊敬するプロのヨットマンだ。

いよいよ緊張のショートレースの 1 レース目。3～4 m の軽風の追い風スタートだ。スタート 1 分前に、ポートタックでスタートラインに向かってきた BENGAL をけん制し、アウター寄りから絶のスタート。その後もうまく風をつかみ 1 着でフィニッシュした。ラットを握った 65 歳の私としては満足のいく第 1 レースだった。

当初の計画では、私がヘルムをする予定は全くなかった。F4 のレギュラーメンバーには磯谷、森崎というヘルムスマンが2人いる。両人とも看護師としてうちの診療所に勤務している。磯谷は福大 OB の元スナイプ乗り、全日本インカレ優勝メンバーで、日本代表としてアメリカ遠征経験もあり、F4 の主ヘルムスマンだ。しかしながら、今回の火山レース直前に双子が生まれたため、急に参加できなくなった。森崎は鹿屋体育大学ヨット部 OB、国体シングルハンドの長崎代表として 10 回以上出場経験のある現役レーサーだ。F4 の副ヘルムスマンだが、今回は運悪く長崎の国体予選と重なったため参加できなかった。その結果、仕方なく私がヘルムをすることになったのである。

ショートレース終了後平川港に帰り、翌日のロングレースの準備をした。長距離クルージングの経験豊富な浅川から、飲み水は一人一日あたり 4 リットル以上用意するようにとの指示があり、水 80 リットルと食料などの買い出しに出かけた。夜は、今回レースに出ることが出来なかった大間賢一君が、はるばる長崎から応援に来てくれて小宴会。ほどほどに飲んでやすんだ。



翌朝 8 時、ロングレースがスタート。参加艇は 7 艇。スタート時には 2～3 m/s あった西風が 9 時ころには 0～1 m/s となり、各艇わずかな風を探して走った。BENGAL のバウマンはマストトップに登ったまま 1 時間以上ブローを探している。上位の 3 艇は、やっと昼頃に錦江湾から出ることができた。我ら F4 が最も西側、薩摩半島寄りに位置し、BENGAL が 2 マイルほど東に、鹿児島有力艇 VINTAGE がその少し東に位置していて、西南西方向、30 マイル先の薩摩硫黄島へと向かった。硫黄島までは、西から東、進行方向の右側から左側に向かって常に 3～4 ノット/時で流れている黒潮があり、それを横切っていかなければならない。南西の風は少し上がり、4 m/s。黒潮に負けないように、F4 は出来るだけ西側、枕崎方向に出ることにした。ポートタックの上りで 1 時間ほど走りタックし。スターボードタックとなり、ナビで硫黄島の 15 度ほど風上側（西側）を目標にバウを向け、クローズドリーチで走った。

黒潮の影響のため乗りにくい波を、塩脇と交代しながら、約 30 マイル延々と走った。BENGAL も VINTAGE も、その船影は全く見えない。後で聞いたら BENGAL は錦江湾を出てからそのまま、ほぼクローズホールドで硫黄島に向かったようだ。そのために艇速がなく黒潮に負けて遅れた模様だ。西へしばらく走ってから黒潮を横切るといふ我々の作戦が成功した。この作戦は、実は前々日、回航組の菊池たちが、枕崎のオールドヨットマンから黒潮のわたり方を教えてもらい、それを素直に実行したものだった。この時、ヘリコプターから撮られた写真があるが（前ページ写真）、F4 がヒールしながら力強く走っているのがわかる。

硫黄島を 19 時過ぎに回航。BENGAL より約 1 時間先行した。夕日と重なって、はるか遠く後方に見える BENGAL の船影を眺めながら乾杯した。



日没後も微風が続き、南風 2 ～ 3 m/s の暗闇の中、時々ライトでセールを確認しながら走った。深夜 2 時ころに竹島の横で BENGAL に追いつかれた。その巨大なジェネカーはおそらく 250 m² ほどあるだろう。それにかぶされて抜かれてしまった。F4 のジェネカーは 150 m² ほどで長崎では最大のものと思われるが、比べると可愛いものだ。真夜中から夜明けにかけては、若い中山君や看護師君たちが活躍。くたびれてデッキでごろ寝している高齢クルー達を横目に帆走に集中、距離を伸ばした。F4 は開聞岳、薩摩半島側へ向かって帆走。ベンガルはどういう訳かかなり遅れ、夜明けには F4 が再びトップに返り咲いていた。その後やや風が上がるにつれ、全員元気を取り戻し、9 時 40 分にフィニッシュした。堂々の 1 位。奇跡のファーストホーム。BENGAL には約 4 時間、VINTAGE には約 5 時間の差をつけて堂々の優勝だった。

後日、原健さんに聞くと、ベンガルが国内のロングレースでファーストホームを逃したのは記憶にないとのこと、高木さんをはじめ皆さん大変悔しがり、来年リベンジしたいから、必ず火山レースに来てほしいとのことだった。

いきなり火山レースの話から始めましたが、2014 年は F4 が 最大に活動し活躍した年でした。

② 8人の仲間たち

F4が長崎に来たのは2012年の1月でした。1994年に有限会社マリノクリエイト琴風が設立され、X-99を購入してスタートした。船名は昔長大ヨット部OB有志が所有していた艇の名前を引き継いで、ネイティブダンサーと命名された。1996年にバルチック35（BLT）の新艇を購入した。バルチックヨットはフィンランド製の名高い艇で、今給黎さんが単独世界一周したのもこの艇だ。マリノクリエイトの代表は阿南さん、メンバーは江上さん、迫さん、牛島さん、波多野さん、大間君、藤原君、と福田の8名。全員、長大ヨット部のOBで、波多野さんが経済学部卒、他の7人は医学部卒だ。卒業後20～30年が経ち、各自の仕事もひと段落したころ。壮年と呼ばれる年代も終わりに近づきつつあり、心にポッカリト空きかけた穴が、再びヨットマンに戻ることによって埋まるかという思いもあり、阿南さんの掛け声で始まったプロジェクトだった。残念ながら阿南さんと牛島さんはお亡くなりになったが、残りのメンバー6人で2024年の現在まで脈々と、若い人の力も借りながら青春を謳歌し、自称ヨットマンを継続している。

創設当初から、水産学部卒で江上さんの同級生の村田さんに指導、監督、艇の維持管理、経理など、ヨット遊び以外の事をほぼ全てをお願いし、まず時津のアルパマを母港とした。その後ハウステンボスに移り、大村湾内や佐世保のレースにはほとんど参加した。

その後数年間は、このBLTで多くのレースに参加していたが、クルージング艇のBLTは堅牢な分やや重く、早い走りが得意ではなかった。そこで軽くて速い、トップのとれるレース艇が欲しくなり、皆さんの賛同を得て、エリオット11（以後ELT）を関西から購入した。いろいろと整備を行い、メーター類やナビなどの計器を取付け、ノースセールの高野さんにケプラーのセール、ジェネカーなどを特注。若いクルーも募集し、本格的にレースに力をいれるようになった。ELTは期待通り、早くて楽しい艇だった。当時、県内レースでは敵なしであったVOLTAGEと何とか先頭を争えるところまで来た。

③ ハウステンボス時代





針尾島に大型テーマパーク、ハウステンボス（HTB）が開園した。その翌年から、テンボス主催のヨットレースが開催され、その後 25 回以上続いた。毎回 100 艇以上、最高で 160 艇ほどのクルーザーが九州全域のみならず全国各地から集まる国内最大級のレースとなった。HTB の経営が H I S に代わってから数年後にこのレースは終了してしまったが、今でも残念に思っている。

我々は ELT と BLT の 2 艇、2 チームをつくり毎回出場した。参加クルーは 20 名以上いた。ELT は何度も上位入賞し、ファーストホームも 1 度とった。当時、我々はこのレースを最大の目標にしていた。毎回、手づくりの前夜祭を企画、開催。レースの景品を用意したり、ネイティブダンサーのメンバーは HTB ヨットクラブの中心となって運営にも参加した。前の夜は HTB のコテージに 10 人以上もぐりこんで雑魚寝したり、楽しい思い出などが懐かしい。

ELT は、小さいながらそれなりに頑張っていたが、博多から SECONDLOVE や ZIGZAG など、40 フィートクラスの早い船が毎回参加していて、なかなか優勝することはできなかった。

④ FARR-40 が長崎にやってきた

2011 年、博多の ZIGZAG チームがオーナーの引退に伴い、艇を手放すようだという話が伝わってきた。糸島で開業されていた小児科の DR だった。ELT で、もう一つすっきりしていなかった我々は、再度マリクリエイトの皆さんにお願いし、この艇の見学にマリノアに行った。快晴の秋の博多湾はいい風が吹いていました。ZIGZAG のクルーの皆さんの操船にて試乗させてもらった。全員が、そのスピードと安定感、高度な計器を装備した走りに魅了され、譲っていただくこととなった。

年が明けて 2012 年 2 月 19 日、F 4 を引き取りに行った。とても寒い日だった。その日の九州北部地方は雪の予報で気温マイナス 3 度。雪がちらつくマリノアで乗船。早朝、デッキの上は凍っていて、雪と氷を払いのけて出発した。震えながらの 8 時間の機走。体を寄せ合って暖をとった。それでも寒く、江上さんと大間君と私は 3 人で「押しくら饅頭」をして寒さを凌いだ。



回航メンバーは、江上、大間、福田、菊池、磯谷、大橋、森崎、田井の8名。唐津沖を通過するころは少し寒さも緩んできた。平戸瀬戸を通り九十九島を抜け、佐世保港に入り針尾瀬戸、西海橋下を通り、夕方ハウステンボスマリーナに到着。大勢の仲間たちが迎えてくれた。F4の長崎デビューだ。

2012年8月のHTBカップYRにF4は初出場し念願のファーストホームを取った。レーティングによる修正では4位だったが、修正成績はどうでもよかった。その後もトップを走ることに喜び、満足した。以後F4はこの大会で計4回、ファーストホームを取った。その後NSMに母港を移して上架、県内のほぼ全てのレースに参戦していった。

今回あらためて、2014年度のF4の活動記録を振り返ってみて驚きました。元気でしたね。今思うと夢のようです。オーナーの皆さんも若かったし、多くのレースに参加されました。

⑤ TND2014年度の活動記録

- 1月11日 HTB係留中の艇のオーナーによる新年会（ホテルヨーロッパ）
- 2月9日 NSMクラブレース（NSM沖から三重沖の灯台往復5マイル）
- 3月2日 大村湾オープンYR（大村空港周辺にマークをうって）
- 4月6日 HTBクラブレース（BLTで参加 オキハダカ島回航5マイル）
- 4月13日 NSMクラブレース（F40で参加）
- 4月27日 長崎帆船祭りYR（NSMから三重沖灯台～高島廻り20マイル）
- 5月3,4,5日 九州カップYR（福田沖）（三角レースとロングレース）

5月13日	大村市長杯 YR (大村空港周辺で)
5月25日	HTB オープン YR (HTB・YC主催)・
6月8日	原健さんによる講習会 (NSMで安全講習、)
6月15日	HTB クラブレース (BLTで参加)
7月13日	NSM クラブレース (F40で参加)
7月19,20日	鹿児島火山レース (初めてのオーバーナイトレース F4 で参加)
8月3日	五島灘横断レース (福江→長崎 50 マイル F4 で参加)
8月17日	大村湾 YR (長与沖)
8月24日	HTB カップ YR (日本有数の参加艇数 BLT と F4 の 2 艇参加)
9月14日	長崎オープン YR (福田沖島廻り) 10月19日 NSM クラブレース (F40 で参加)
10月26日	西海 YR (九十九島沖、黒島、片島廻り 25 マイル F4 で参加)
11月2日	小浜長崎 YR (小浜→NSM50 マイル F4 で参加)
11月16日	NSM クラブレース (F40 で参加)
12月7日	HTB クラブレース (BLTで参加)

このころが一番活動していたころですが、振り返ってみると、すごい数のレースに参加していました。楽しかったです。2015年以降も、コロナ禍前は、可能な限り県内のレースには参加するようにしていて、多くのレースに出場しました。私の診療所の5階ラウンジには、多数の優勝カップや、ファーストホームや入賞でもらった記念品が50個以上飾られています。懐かしい思い出です。(写真15～18)

⑥ 最後に

昔、長大ヨット部に入ったこと。ヨットに乗れるようになったこと。ヨットで多くの経験をさせてもらったこと。今でもヨットに関われていること。今でもヨット仲間がいること。これらが私の自慢です。自信です。誇りです。

生きがいでもあります。

命が尽きるまでヨットマンでいたい。

万歳



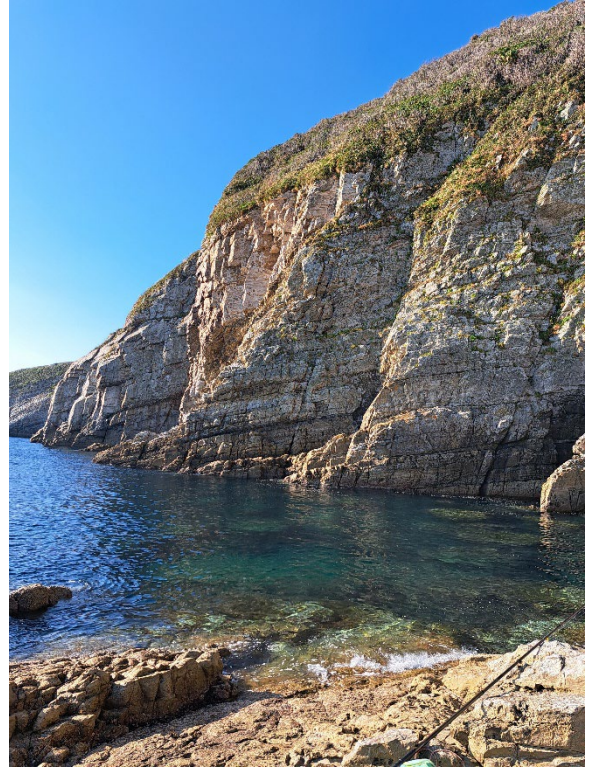


昭和 44 年 4 月、長崎大学は学生運動の真っ只中
入学式も行われない中私は福田の西光寺でのヨット部の春合宿に参加して
いました。

55 年前、当時、部員は 50 名以上？ 懐かしい、楽しい思い出です
現在も海との繋がりには切れることなく 五島の海にたびたび
出かけ、魚と遊んでいます。

昭和 44 年入学 水産学部 土井克博





「TOKYO2020」への道

昭和 58 年卒業 江口 和哉

2013 年東京でのオリンピック開催が決まったニュースを観て、すごく興奮したことを今でも鮮明に覚えています。そして「ただテレビで観るのではなく、一生に一度だから、何か関わりたい」、という思いがわいてきました。交通整理でも、弁当運びでも、何でもいいからボランティアをやりたいな、と漠然と思っていました。

それから数年が経過して、ドライブの途中でたまたま江の島ヨットハーバーに立ち寄った際、あるポスターが目飛び込んできました。

【マリフェロウズのメンバー =海のボランティア= 募集中!】

神奈川県藤沢市ヨット協会に属し「ヨットレースの運営、セーリング技術の習得、イベントを支援する

ボランティア団体」で、オリンピックの手伝いをするようになるかも。

即刻入会申し込みをさせていただきました。すべては、ここからが始まりです。

長大ヨット部卒業後、初めての勤務地である名古屋でシーホッパーに乗る機会もありましたが、ほとんど丘に上がったカップ。海と縁遠いこの 40 年近いブランクは意外に大きく、ルールも違う、体力も違う、そして相模湾の大きな波とうねりは、大村湾とはとても異なるもので、運営技術も初めてのことばかりでしたが、約 6 年間の活動を経た後、TOKYO2020 に技術役員として携わることができ夢を叶えることができました。

私にとって、とてもエキサイティングだったこの活動の一端をお伝えします。

■2015 年から 2018 年頃

江の島沖、葉山沖の相模湾では、年間 200 近い大小さまざまなレースが行われており、当然レースの運営サポートする我々ボランティアにも声がかかります。モス級世界選手権や 470 級全日本選手権といった大きな大会や、県民レース・市民レースやジュニアのレースの運営にも携わることができました。私は、もっぱらマークボートのクルー。風見に始まり、潮の確認、マークレイアを使った的確なマーク設置、回収が主な作業です。ですから、アンカー揚げも随分やりました。この歳になってアンカー揚げをすることはギックリ腰が不安でしたが、大きな怪我に至らずよかったです。たまには、海のルールを知らない初心者のレスキューすることもあります。もしかしたら TOKYO2020 でのボランティアが現実になるかも、と甘い期待を抱きながら活動していました。

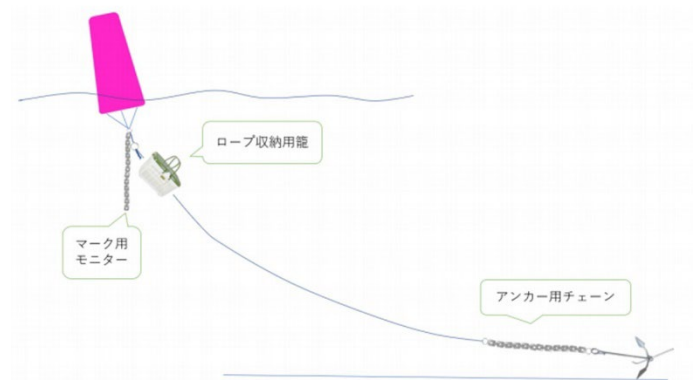
オリンピックは世界最高峰の大会なので、AI、IoT といった最先端の ICT 技術を駆使した大会と勝手に想像しておりましたが、結構人手による作業も多く、正直びっくりしました。ある人がこう言っていました。「人がマークを打つオリンピックは今回が最後になるのではないか。」ちなみに、前回の東京オリンピックは、海上自衛隊がマークを打ったとか。パリのオリンピックを観てみたいものです。

■2019 年頃

TOKYO2020 本番を翌年に控え、リハーサルも兼ねて 2 つの大きな世界大会が開催されました。「オリンピック・テストイベント」と「世界選手権」です。オリンピック本番さながらに、両大会連続で約 40 日間開催されました。オリンピックと同等規模の大会なので、運営サポートのメンバーは学生も含めて全国から 200 人超位集まったのでしょうか。さらに、セーリング国際大会のプロの役員が世界中から 100 名近く集まり、運営に対する指導を受けました。彼らからの日本人によるレース運営の評価は最悪で、多くの指摘事項をもとに、それまでの運営マニュアルもかなりブラッシュアップされました。また、「運営サポートメンバーは両大会ともに参加しなければ、オリンピック参加資格なし」というルールが提示され、現役サラリーマンの身としては随分悩みましたが、そんな長期間会社を休めるハズもなく、「オリンピック・テストイベント」のみ参加してオリンピックの技術役員としての参加する夢は断念せざるを得ませんでした。

■2020 年

いよいよオリンピックの年。正月明けから、極寒のなかトレーニングがスタートしました。毎週トレーニングのスケジュールが組まれ、私は断念したはずでしたが一応参加しました。マークや本部船、フィニッシュボートの正確なアンカリングの反復練習です。本番時は 5 海面でレースが行われる予定でしたが、水深約 90~100m 近い一番難しい海面での訓練でした。この深さだと、アンカーの揚げ降ろし、マーク設置・移動にとっても時間がかかり、また波や潮に流されるので大変です。



そうこうしている内に、緊急事態宣言が発せられ、世の中の雲行きが随分変わってきました。そうです、コロナです。3 月には TOKYO2020 の 1 年延期が決定し、先が見通せない状況になっていました。すでに江の島ハーバーのディンギーはすべて別のハーバーに移動が完了しており、オリンピックに向けての準備は着々と進められていましたが、我々のトレーニングも一旦中断して、夏、秋と過ぎていきました。

■2021 年

年が明けても一向にコロナは治る気配がなく、ご承知のとおり世の中は TOKYO2020 に対して逆風が吹いていました。中止、さらに 1 年延期すべきと。そんな状況のなかでも、3 月位からトレーニングが再開されました。何故か私もトレーニングメンバーの仲間に入っており、気づいたときには組織委員会から派遣依頼をいただき、めでたく正式に参加することになりました。どさくさに紛れて、といった感じでしょうか。



大会直前まで、開催されるのかどうかわかりませんでしたので、今一モチベーションが足りないままでしたが、ネットで配信されたセーリング競技の壮行会のエンドロールで自分の名前を発見したときは大変感動し一気にテンションがアップしたのを覚えています。

本番は「無観客」で行われることになり、少し寂しい大会となりました。防波堤に観客席を設けて多くのギャラリーで賑わう予定でしたが残念でした。我々運営役員もバブル方式といういろいろと行動制限がありました。宿泊は「平塚」のビジネスホテルに缶詰で夜間外出禁止、夕食はホテルへの宅配で、江の島との行き帰りはシャトルバスのみ、といった指示でした。実際には緩くなっていましたが。

レースは、「49ex」クラスの 4 マークを担当しました。我がボートは 20 代の北陸の大学ヨット部出身の艇長と、30 代の青森の高校のヨット部顧問の先生との 3 人組。還暦を迎えた私の体調を除いては不安もなく、とてもチームワークよく無事活動できました。トップセーラーによる緊迫した試合を間近に観ることができ、最高の瞬間でした。ただ、上位陣の技術は言わずもがなですが、下位のチームは沈することも多く、大きな力の差があることを感じ

ました。これは、国の代表として競うオリンピックと、世界ランクの上位陣が競う世界選手権との違いではないかと思います。大会期間中、ほぼ好天に恵まれ、無事 10 レースを実施することができました。オリンピックは最高峰の大会であるとともに、お祭りの要素もたくさんありました。世界に 3 艇しかないというヨットレース専用のメディアボートやドローンも飛び交い、ネットではわかりやすい解説とともにリアル中継が行われました。また、岸壁近くで行われたメダルレース(決勝戦)は各国の選手、コーチも応援し、大いに盛り上がりました。日本チームは、470 級女子吉田・吉岡組、470 級男子岡田・外薊組ともに 7 位入賞で、期待されたメダルを見ることは叶いませんでした。



一方、日本メンバーによるレース運営に対する評価は抜群で、世界各国からきたプロの役員・選手からたくさんのお褒めの言葉をいただきました。何度も何度も繰り返し実施したトレーニングの成果だと思います。

とても誇らしい思いです。我々海上運営メンバー以外にも、多くのボランティアの方々と触れあうことができました。ハーバー周辺では、近くの小学生が育てたたくさんの朝顔が出迎えてくれました。会場駐車場担当のボランティアの方から、毎朝「おはようございます。頑張ってください。」と声をかけていただき、とても元気をもらいました。横断幕をもった応援団、受付、自衛隊によるセキュリティチェック、また毎朝行われたコロナ検査、様々な人の支えで大会は行われたこと、それを感じられたことは何よりの思い出です。

■最後に

18 日間従事しました。一生に一度の最高の経験をさせていただきました。会社にも、家族にも、たくさん迷惑かけましたが、いろんな人の助けと理解があってこそ実現しました。また、日頃励まし合いながら一緒にボランティア活動をしている江の島のメンバーにも改めて感謝の気持ちを伝えたいと思います。

子々川でヨットに出会い、楽しかった、辛かった長大ヨット部での経験あってこそ、すべて今回の江の島での活動につながっているように感じました。ヨットは、年齢、性別、国の境なく、広くみんなが楽しめる素晴らしいスポーツですね。これからは何らかのカタチで海やヨットと関わり続けていければと思います。

いつの日か、長大ヨット部からオリンピックが出るのを楽しみにしています。

現役諸君のさらなる活躍を心から祈念して。 Go Ahead!!



同期集合

昭和 54 年入部 島崎勲

ホットなところで 昨年の 70 周年琴風会で 久しぶりに同期が勢ぞろいしたことについて報告したいと思います。（総会と子々川クルージングは割愛）

ちなみに 私たちの代は 1 年生のとき 3 年生に「琴風」に必ず登場する（？）貝原さん岡田さんたちがいらっしゃった代です。

9 月 9 日（土）

朝から 福岡市在住の中尾と私が車で出発。

琴風会総会の前 まずは 3 月亡くなった 1 年下の岩高の墓参りから始まった。

そこで 東京から江口 滋賀から磯部 岡山から村井と合流する。

岩高自身もご家族の方も不慮の事故で亡くなったことは大変無念であったと思う。

心からご冥福をお祈りします。

（せめて良かったことはお墓が長崎駅前の山の中腹で長崎湾を臨む素晴らしい立地であったこと 合掌）

9 月 10 日（日）



左から 磯部 島崎（投稿者） 江口 中尾 村井 ※稲佐山にて

子々川クルージングのあと 稲佐山登頂

あらためて見ると なぜか5人とも 現役のように日焼けしているのが不思議(笑)です。卒業して40年過ぎても 会えばすぐにヨット部時代にタイムスリップする。この感情はなにものにも代えがたいことです。特に磯部と村井に会うと必ず思い出すのは あの「子々川合宿」のド強風の中 ティラーを握りながら 磯部はキャッキヤ騒いでいて 振り返ると村井はウトウト寝ている そんな姿をみて 恐怖心が吹っ飛んだこと。仲間とは実にいいものです!!

その後 夜は「長崎中華街」で飲んで・・・

9月10日(月)

長崎から福岡に車で5人移動しながら 亡くなった同期のお参りをする

■中島洋 (佐賀県大町町)



※中島時計店前(当日定休日) 弟さんと

妹さんがコロナになられて 急遽弟さんが色々対応していただきました。お父様は亡くなられていましたが妹さんが通いで中島時計店を継がれて守られていました。前回 同期で中島/山口宅を訪れたのは 15 年前、その時お父様はご健在で大変喜んでいただいたのを 昨日のように思い出します。

■山口幸治 (福岡市)

お父様ご健在で妹さんが介護されていました。

変わらず お元気でなによりでした。

山口は 当時スナイプ級優勢の中 私たちの代の470級を全日本インカレに導いてくれた男だと中尾と私は思っています。

福岡では名物の「てんぶらの達磨」で昼食をして 夕方次回再会を約束して三々五々 福岡空港や博多駅から帰途につきました。

◆追記

「琴風会」で片木先輩に観戦船の相談し快諾いただきました。

小戸ヨットハーバーで九州インカレ等があるとき 片木先輩のクルーザーで観戦船をだせないかということです。今年片木先輩と色々検討して運用可能でしたら近郊のOB/OGをお誘いします。

(実体験として 小戸の防波堤からの観戦は遠すぎてどこの大学か分からない。かろうじてスピンを張った時わかる程度。つまらない思いをしているのは私だけでしょうか?!)

感謝

今は亡き同期を訪ねて

昭和 59 年水産学部卒 中尾 剛規

皆様こんにちは。昭和 59 年卒、470 (J1404) に乗っておりました中尾剛規と申します。2023 年 9 月 10 日に開催された創立 70 周年琴風会では同期生を始めとし懐かしい先輩方や後輩諸君と久しぶりに会えて楽しい時間を過ごさせてもらいました。幹事の方々、大変ご苦労様でした。おかげさまで 40 数年前の自分にタイムスリップすることができました。

さてその翌日、同期の江口和哉君、磯部信幸君、島崎 勲君、村井清文君とで、今は亡き同期の中島 洋君と山口幸治君の墓前に参りに行きました。お二人とも若くして亡くなっており、もし存命であって今回の琴風会で再会できていたらとの想いが心に湧きました。お二人のご実家を訪問し、ご家族の方とも久しぶりにお会いでき、墓前で近況を報告し、素晴らしい時を過ごしました。

こうして時を過ぎてもヨット部仲間と集まることができるのも、大学時代の大半を同じ釜の飯を喰い、ヨットに乗って互いに切磋琢磨し、濃密な時間を過ごしたからだをつくづく思います。

私も定年を過ぎ、今年の 9 月で再雇用期間も終了し会社員人生もいよいよ終わり自由な身となります。今後は今まで忙しくて出来なかった妻との旅行を楽しみ、充実した残りの人生を過ごしたいと考えています。自宅は福岡市西区ですので、これからは小戸で開催されるヨット部の試合にはぜひ応援に駆けつけさせてもらいたいと思います。

現役諸君、Go Ahead!



近況報告

昭和54年入部 村井清文

学校を卒業して40年

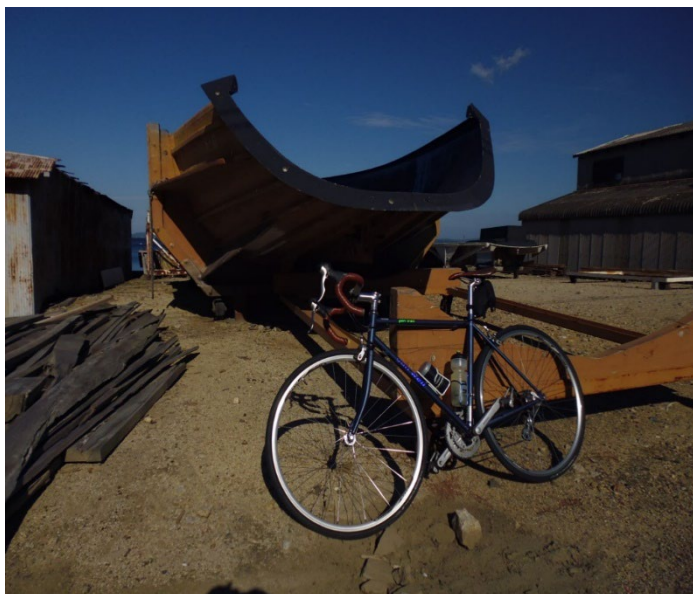


海であそんだり



山で遊んだりしていましたが





もう火事場の馬鹿力はでないので
サイクリングをしたり



ゲレンデスキーをしたり

魚釣りをしたりして遊んでいます

皆さん遊んでいますか。

瘋癲老人でした



卒業してから 30 年になります

平成 5 年卒 森一浩

平成元年に入部、平成 5 年に無事ヨット部を卒業しました。私（26711）はなんの成果もありませんが福岡大学が強い時代でしたが同期の内田がスナイプ個選で全日本選手権に出場していました。

琴風 25 号ヨット部関西支部結成以来の寄稿となります。卒業して 30 年になりヨットのことも忘れがちになりますが息子のヨットの話をしします。

平成 30 年岡山大学に入学し何を血迷ったか紆余曲折の上 6 月ごろにヨット部に入部した。（1 年の冬にウェットスーツを買って練習後寒くて？退部した）

9 月に目的は集金だと思うが部員父兄のヨット試乗会に夫婦で参加した。ヨットを知らないふりで 1 年生スキッパーにいろいろ専門的な質問しているうちに説教口調になるのを抑えつつ、30 年前と違うという感想として

- ・スナイプのジャイブは両手でウイスキーとロープを頭上でクロスしてすばやく反対方向に押出すようなやぼったいことはしない。ばねみたいな道具で片手でジャイブ。
- ・1 年生でスキッパー（艇長？）をし、クルーは固定していない
- ・センターやウイスキーが沈しても沈まない（無くさない）
- ・コースが違う（上→サイド→下→上→下ではなかったように言ってた？）
- ・フルハイクはするが根性論はない（当然のこと？）
- ・詳細は忘れましたがセール、マスト、艇内なんかも進化している

（逆ベントしたマストで走ってた時期もあった私には浦島太郎状態でした）

瀬戸内海の湾で練習していて大村湾と似ているような気がしました。（30 年前の大村湾の夏は昼間はべたでパドルさばきはうまくなった）

女性の部員も半分くらいいて賑やかな活動をしていました。

私の近況は今年で 55 歳となり定年（60 歳で一区切り）まであと何日か指折り数えつつ毎日、会社（大阪市内）と家の往復しております。

30 年前のヨット部時代の楽しかった活動を思い出しつつ、子ども 2 人もやっと社会人となり脛をかじられることもなく今一番金持ちで幸せかな。

長崎大学ヨット部と琴風会の発展をお祈りしています



長大ヨット部追コン H3. 1. 19 於銀鍋



近況のご報告 ～私の休暇～

平成 11 年入部 池田 まゆみ(旧姓：大石)



ご無沙汰しております。長崎が好きで、大学生活をきっかけにこの地を離れられずに住みついてしまっている私です。そんな私の卒後約 20 年、ヨット部とのお付き合いは今も続いていることに感謝し、日々を楽しんでおります。

お付き合い 1.

休日は出かけることが多く、時々同期の田井くん家族と遊びたいと思い、声をかけても「夜勤で寝たいから・・・」と切ない回答をもらうことがあります。嫁のほうが優しいです。



お付き合い 2.

我が家の自家用車事情は、概ね長崎日産の諫早営業所で管理されています。響介(くん)が代々車の面倒を見てくれ、時々釣り自慢をしてくれます。飲み会の誘いは田井君よりも彼のほうが声をかけてくれます。

お付き合い 3.

昨年ばったりお会いした人シリーズ(琴風総会含まず)。

で言うと(痩せている)肥田先生。私の代は、大村湾での練習時のイメージが色濃く、私もいつかは…と淡い期待を抱かせてくれます。ユニクロ含めちらほらお見かけします。また、たまに休日の誰もいない合宿所に子供と海を見に行ったりします。誰も居ないだろう、と伺った艇庫で昨年は、貝原さんとお会いし、子供たちとクロスやシート類を日干しさせていただきました。「ママも昔使ったの？」と尋ねられましたが、「昔よりきれいに整理されていると思う」と答えました。中々活動できなかったということもあると思いますが、それでもきちんと維持されていたことに幸せを感じました。

その他お付き合い

貝津の企業で働き始めてから、高校まで続けていたフルートの演奏を復活しました。小さなお祭りや、結婚式、会社イベントなどで活動しています。今年は、JAZZ フェスに出たい！と目標をたてました。昨年年末は 4 年ぶりにタイに帰り、小さい頃から見たかったチャオプラヤの盛大なカウントダウン花火をホテルの屋上から満喫しました。母も歳をとり、簡単に歩けなくなる前にあと何回かはタイに連れて帰れたら、と思っています。近況報告との

ことなのに、長文になり申し訳ありません。海が好き！人が好き！に音楽もやっぱり好きだった！が盛り込まれた最近の私です。



福井県で4歳と2歳双子の子育て中です

平成11年入部 大熊 典子

福井県で4歳と2歳双子の子育て中です。カブトムシを探したり、雪遊びをしたり、庭に亀が卵を産みに来たり…自然豊かな場所で楽しんでいます。

セーリングの方はというと、現在、セーリングスピリッツ級の計測委員長をしています。

昨年の全日本（佐賀国体のプレ大会）と鹿児島国体では計測員として、久しぶりに試合の雰囲気を楽しんできました。長大ヨット部の先輩にも会うことができ、現役生も選手で頑張っていて嬉しかったです。

福井県にもやっと新幹線が来ました。夏は海、冬はスキー、恐竜博物館や温泉もあります。長崎と同様に海鮮が美味しく、甘エビは私のイチオシです！是非、遊びに来てください。





長崎での思い出を振り返って

平成 11 年入部 田井 隆之

卒業後もずっと長崎にいるばかりに、いつの間にか琴風会副会長の肩書がついていました。普段はあまり自分のことを語らないせいもあり田井は何をしているんだと言われそうなので卒業後のことや今どうしているのかを、もう忘れてしまっていることも多々ありますが思い出しながら書きたいと思います。

ヨット部を引退したあとも子々川が心地よ過ぎて OB として毎週のように通い、長崎で就職したあとも通っているうちにいつの間にかコーチをしていました。現役時代はほぼ 470 のスキッパーだけをしていましたが、卒業後長く教えていたのでいろんなことがありました。部員がほぼ男だけになった時には合宿のご飯が貧相すぎて、料理番長になり毎週ご飯を作っていたので料理の腕が上がりました。1 年生スキッパーのクルーをさせられて 1 日中チンの連続だったり、現役が沈めたスナイプのセンターを真冬の海に潜って取りに行ったりして体力も付きました。現役時代には乗ったこともなかったスナイプで全国大会に出たりもして、この頃は体脂肪が一桁台になりました。長崎国体もありレースの運営を学びに福岡や鹿児島に出かけたり、福田豊先生に誘われてクルーザーレースにもたくさん出させていただき五島などにも行きました。お金はなかったですが今思い出すと長い長いモラトリアム期間だったと思います。この頃に後輩たちとたくさん知り合い、現在も付き合いが続いています。また今の奥さんであるみのりともこの頃出会いました。



ちょうどこの頃、会社で県外転勤ありか県内のみか選ぶことになり悩んでいたところ、クルーザーでお世話になっていた福田豊先生の勧めもあり、看護学校に行き看護師になる事にしました。長崎市医師会看護学校を受験しましたが、福田先生の威光が眩しすぎたのか全て落とされてしまったため、島原の看護学校に 3 年間行くことになりました。自分の名誉のため申し添えておきますが、島原では 3 年間特待生で学費免除で過ごしました。その後長崎の病院に就職しましたが、看護師の仕事は多忙で週末の休みが少なかったり、また結婚して子育てが忙しくなったこともありヨットとはすっかり疎遠になってしまいました。

現在では長崎市内に家を建て、時々ヨット部に顔を出しなんとか現役にも忘れられずにいるようです。週末の休みが少ないためヨット以外に一人で色々遊ぶことを覚えました。温泉が好きで九州八十八湯をめぐり泉人（せんじん）になりました。今は対馬にいる須崎寛和君も特に温泉好きで彼が現役や大学院の頃はよく一緒に温泉巡りをしたのもありすっかり温泉にはまっています。今彼は九州本土の温泉を恋しく思っている事でしょう。しかしながら島に行ったことで結婚もでき、子供もできて幸せに暮らしているようです。島岡啓一郎君の影響をうけて始めたのはロードバイクです。彼は生粋のスナイプ乗りでハイクアウトが大好きだったのでロードバイクでも坂道が大好きでした。今では彼も子育て中ということもありロードバイクをすっかり眠らせているようです。僕は今でも一人で寂しくふらっと大村湾を一周したりしています。また自宅の庭に畑を作り家庭菜園もしており、出来た野菜を大田響介君が釣ってきた魚と物々交換してもらってます。彼は生粋の釣りバカに成長しており毎週のように釣り船に乗っているようです。ブリやカツオ、クエなどの高級魚も釣ってきてくれるため、思わず僕も高級出刃包丁を買ってしまいました。同期の池田まゆみとは家族ぐるみで付き合っており、お泊り会や一緒に旅行にも行きました。10 人乗りの車で大人 4 人・子供 4 人で行った旅行は子供たちのテンション MAX でとても疲れましたがとても楽しかったです。途中からもうどれが自分の子供かわからなくなりました。子々川合宿で鍛えた料理の腕で、うちの庭で皆を呼んで BBQ することもあります。骨付き肉やき牛肉ブロック、丸鶏なんかも料理し、子々川でも腕を振るったこともあります。我が家のウッドデッキで長崎では珍しい雪の積もる中、牡蛎焼きをしたときはみんな震えていましたが忘れられません。島岡君が薄着で来たため歯をガチガチいわせていたので上着をたくさん貸しました。

うちは妻のみのりも僕も長崎の出身ではありませんがどちらもヨット部出身で、ヨット部のみんながいるおかげで長崎でも楽しく過ごせています。子育てがひと段落したらまたヨット部にも頻繁に顔を出したいと思い、今は子育てと仕事を頑張っています。



近況報告

平成11年入部の藤井です。近況報告のご依頼をいただきましたので寄稿します。

まずは、昨年の琴風会総会は盛大に開催され、私も久々参加させていただきました。偉大なる先輩、部員の頃に共に活動した仲間、活躍している後輩と多くの方々と懇談させていただきました。楽しすぎて2次会、3次会と徐々に記憶が・・・、おそらく一番楽しんだのだろうと勝手に思っております。

次の日は、何年ぶりかの子々川で海に出ました。現役の頃、仲間と切磋琢磨しながら過ごした日々を思い出すことができました。また、恩師である岡田さん、竹本さんと子々川で写真を撮ることができたこともいい思い出になりました。

現在の私は福岡市東区に居を構えており、妻と3人の子どもと普通のサラリーマンとして日々過ごしております。よって、休日は通常の土日祝日となります。その多くはこの春、中学2年生となる長男の野球の応援に行っております。

その他は何をしているかというと、福岡市は150万人を超える都市ではありますが、近くに自然が多いのが特徴です。我が家の近くには「立花山」という初心者でも普段着でも登れる山があります。戦国時代、立花山には城があり、薩摩の島津氏が九州を平定しようとした際、立花宗茂が籠城の末、撃退した歴史ある山です。

コロナ禍の際は、会社から休業をするように指示があり、時間を持て余すことがあり、家から歩いて立花山登山をしてみました。大人の足で、我が家から登山口までは片道約30分、登るのに約45分、降り約30分です。山頂での休憩時間によりませんが、3時間もあれば家からの登山が可能です。写真は最近撮ったものでわかりづらいですが、山頂からの眺めで、金印が出土された志賀島、その島につながる海の中道、高層マンションの立ち並ぶアイランドシティなどが一望できます。歩いて行けるということは、山頂でビールを飲める最高の時間を過ごすことができます。

海との付き合いはというと、車で10分も走ると玄界灘に面した奈多海岸という海に出ることができます。長崎の海にはかないませんが、暇なときは漁港で釣りに興じることが今唯一の海とのお付き合いです。

私は、小中高と野球をしていたことから野球観戦も趣味の一つです。私は九州内を転勤することがあり、現在のように博多の本社に勤めている間は、仕事終わりにPayPayドームへ行き、ここでもビールを飲みながら最高の時間を過ごすことができます。

最後になりますが、現役に皆さんの活躍はLine等で見させていただいています。2年前まで地域のソフトボールチームの監督代行をしていたため、ほぼ土日祝日はそこに時間をとられていました。今は、先に記載したとおり、少し自分の時間を持つことができるようになりました。そのため、琴風総会にも参加できました。小戸のヨットハーバーにレース等で現役の皆さまが来る際は応援にも行きたいと思いますので、Line等での活動報告をよろしく願います。



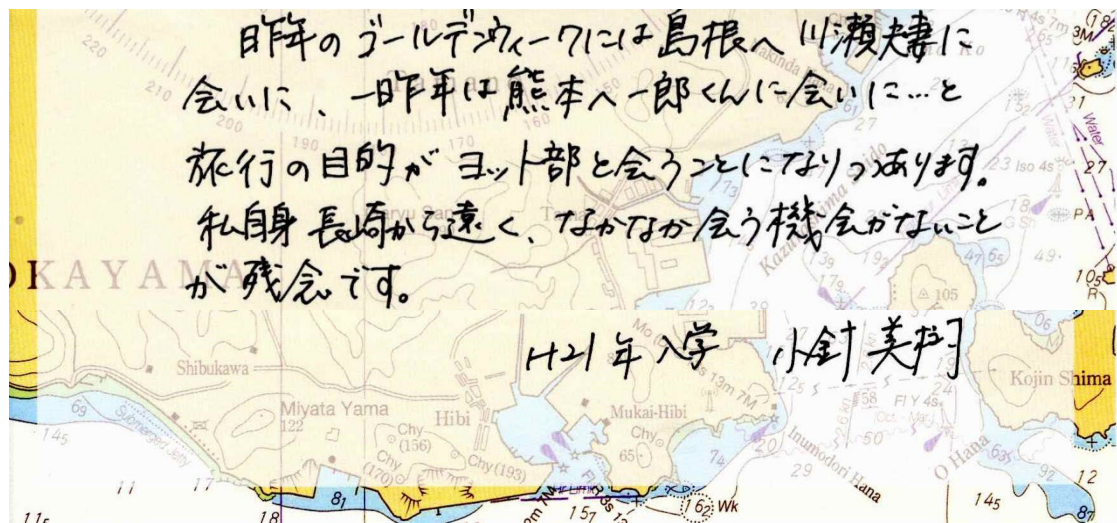
子々川にて(左から竹本さん、岡田さん、藤井、池田、田井夫婦)



コロナ禍奈多漁港にて(長女、長男と釣り)



PayPayドームにて(お立ち台体験)



サトケンより

平成 21 年入部 齋藤謙太

2023 年度は水産高校の研究発表集会で 10 年ぶりくらいに長崎へ。子々川でホッパーと海水浴で遊び、イルカと出会いました。

夜はころへ、料理は変わらずおいしかったです。きょうすけさんの釣った魚も！

お会いした皆さまありがとうございました。また会いましょう。



「関東支部会開催報告」

琴風会関東支部では1月20日土曜日に、九段下にあります私学会館にて琴風関東支部会を開催いたしましたことを報告申し上げます。

何よりもAge 80、70代の元気ハツラツとされた多くの在郷の諸先輩方にもご参加いただきました。世代は違えど長崎大学ヨット部の思い出を語れ、ご参加のみなさまの笑顔と笑い声を聞け楽し時間過ごせました。

また準備に時間を割いていただきました江口先輩がなんと！足を骨折されて当時のご参加できないと言うハプニングが発生しましたが、当日はビックリゲストとしてWebにてご挨拶していただきました。当日の進行などは大迫先輩がリーダーで我々若手？（笑）も楽しみながら進行させていただきました。各種不行き届きなどありましたが、ご参加のみなさまの温かいご支援と笑顔を受けて無事に開催することができました。

みなさま、本当にありがとうございます。

ぜひ来年もみなさまお元気でご参加のほどよろしくお願いいたします。

琴風関東支部 江口会長代理 楠本圭祐



2023年度 部員名簿

氏名	入学（H）	学年	学部	役職	出身
小倉 直人	R3	3	工学部	主将	静岡
梶原 快	R4	2	工学部	副主将	福岡
加藤 大智	R4	2	水産学部	会計	愛知
福浦 修太	R4	2	工学部	学連	佐賀
崎山 耕喜	R5	1	水産学部	庶務全般	沖縄
島崎 壮大郎	R5	1	工学部	OB係り	東京
岡崎 明倫	R5	1	水産学部	SNS	香川
小早川 有希	R5	1	水産学部	SNS	愛知
中西 洸	R5	1	水産学部	庶務	兵庫
山下 葉奈	R5	1	経済学部	琴風救助艇	福岡県

2023年 九州学生ヨット選手権大会(新人戦)
2023年3月25日(土)～3月26日(日)
福岡市西区 福岡市ヨットハーバー

最終成績

国際470級																			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇			艇		
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--

レース日	25-Mar-23	25-Mar-23	26-Mar-23	26-Mar-23
天 候	曇り	曇り	曇り	曇り
風 向	25°	20°	60°	15°
風 速 (kt)	12kt	15kt	6kt	7kt
スタート時刻	14:00:00	15:00:00	10:05:00	13:05:00
最初の艇フィニッシュ時刻	14:33:09	15:29:50	10:55:10	13:50:45
レース終了時刻	14:48:09	15:44:50	11:10:10	14:00:20
参加艇数	21 艇	21 艇	21 艇	21 艇
出走艇数	18 艇	18 艇	20 艇	20 艇

レース委員長	岡村 勝美
プロテスト委員長	岡部 幸司
テクニカル委員会	
記録部長	岩瀬 広志

2023/3/26 15:33

2023年度 西日本学生ヨット選手権大会
2023年5月4日(木)～5月6日(土)
福岡市西区 福岡市ヨットハーバー

最終成績

国際 470 級																										
艇順位	識別 #	Sail #	Hull#	所 属	艇 長	クルー	1R			2R			3R			艇			艇 順位	団体 得点	団体 順位					
							着順	確定	得点	着順	確定	得点	着順	確定	得点	合計	除外	得点								
9	16	4800	4800		田 中 恵都	松尾 勇輝	9	9	9	5	5	5	19	19	19	33			33	9						
2	17	4759	4759	日本経済大学	北方 雄悟	安藤 司	2	2	2	2	2	2	3	3	3	7			7	2	43.0	1				
1	18	4758	4758		濱田 登羽	宮崎 朝光	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3			3	1						
4	1	4712	4712		五嶋 杏莉	足立 健太郎	8	8	8	11	11	11	5	5	5	24			24	4						
14	2	4683	4683	福岡大学	藤田 奏音	春山 祥輝	4	4	4	4	4	4	8	8	8	46			46	14	117.0	2				
15	3	4542	4542		幸野 翔太	阿部 一希	6	6	6	6	6	6	7	7	7	47			47	15						
19	10	4675	4675		河内 詠斗	内田 航太郎	13	STP	14	RET	RET	34	9	9	9	57			57	19						
17	11	4523	4523	広島大学	高坂 実由	藤田 良太郎	11	11	11	DNF	DNF	34	4	4	4	49			49	17	153.0	3				
16	12	4481			比嘉 竜太郎	岸野 晃大	20	20	20	7	7	7	20	20	20	47			47	16						
7	13	4467	4467		北 修紋	筒井 颯太	10	10	10	6	6	6	13	13	13	29			29	7						
23	14	4407	4407	鹿屋体育大学	深江 花鈴	中鉢 賢匠	14	14	14	UDF	UDF	34	22	22	22	70			70	23	175.0	4				
25	15	4337	4337		牧口 千貴	山口 葉華	24	24	24	DNF	DNF	34	18	18	18	76			76	25						
21	7	4717	4717		泉 幸来	伊井 宏景	DNF	DNF	34	18	18	18	17	17	17	69			69	21						
26	8	4597	4597	九州大学	前田 将太郎	永田 蒼馬	22	22	22	DNF	DNF	34	24	24	24	80			80	26	212.0	5				
20	9	4556	4556		伊藤 舞梨	金子 朔也	21	21	21	21	21	21	21	21	21	63			63	20						
18	4	4480	4480		武田 宙大	金田 陽登	16	16	16	17	17	17	23	23	23	56			56	18						
30	5	4287	4287	西南学院大学	釜山 大輝	大平 彩佳	DNF	DNF	34	DNF	DNF	34	27	27	27	95			95	30	223.0	6				
24	6	3813	3813		坂門 寛太	岩田 篤志	23	23	23	20	20	20	29	29	29	72			72	24						
33	19	4121	4121	宮崎大学医学部	橋本 咲	米澤 柊真	DNF	UDF	34	RET	RET	34	DNF	DNF	34	102			102	33						
31	20	4453	4453	長崎大学	小倉 直人	小早川 有希	DNF	DNF	34	DNF	DNF	34	28	28	28	96			96	31						
28	21	4454	4454	長崎大学	福浦 修太	梶原 快	DNF	DNF	34	16	16	16	31	STP	32	82			82	28						
12	22	4634	4634	日本経済大学	関 蒼太	長谷部 堅大	12	12	12	14	14	14	14	14	14	40			40	12						
8	23	4585	4585	日本経済大学	糸瀬 雅玖翔	中村 豪太	7	7	7	8	8	8	15	15	15	30			30	8						
10	24	4541	4541	日本経済大学	糸瀬 瑛喜一	井上 幸	19	19	19	9	9	9	10	10	10	38			38	10						
11	25	4814	4307	九州大学	城 毅	桑岡 育	18	18	18	10	10	10	11	11	11	39			39	11						
27	26	4	4382	広島大学	鶴木 勇輔	安藤 悠	DNF	DNF	34	15	15	15	32	32	32	81			81	27						
22	27	4636		岡山大学	藤本 悠希	中尾 優太	25	25	25	19	19	19	25	25	25	69			69	22						
29	28	4582	4582	琴風会	近藤 大	金城 侑旺	RET	RET	34	UDF	UDF	34	26	26	26	94			94	29						
6	29	3760	3760	帆友会	永野 俊輔	金子 壮太	3	3	3	13	13	13	12	12	12	28			28	6						
5	30	3849	4802	宮崎県セーリング連盟	宮本 健吾	折田 広大	15	15	15	4	4	4	6	6	6	25			25	5						
13	31	4499	4499	愛媛県セーリング連盟	市川 悠斗	鍋良 桂吾	17	17	17	12	12	12	16	16	16	45			45	13						
32	32	4417	4417	愛媛県セーリング連盟	山本 隆介	山本 峻志	DNF	DNF	34	DNC	DNC	34	30	30	30	98			98	32						
3	33	4593	4593	(医)六広会 TEAM ENTERPRISE	樋高 陽之助	木原 寛太	5	5	5	3	3	3	2	2	2	10			10	3						

2023/5/6 16:23

レース委員長	レース日	5-May-23	5-May-23	6-May-23
	天 候	晴れ	曇り	雨
	風 向	150°	160°	165°
プロテスト委員長	風 速 (kt)	14kt	20kt	11-12kt
テクニカル委員会	スタート時刻	10:18:00	11:45:00	11:40:00
	最初の艇フィニッシュ時刻	10:47:28	12:15:47	12:20:28
	レース終了時刻	11:02:28	12:30:47	12:35:28
記録部長	参加艇数	33 艇	33 艇	33 艇
	出走艇数	33 艇	32 艇	33 艇

2023年度九州学生ヨット選手権大会(個人戦) 2023年度九州470級ヨット選手権大会

2023年6月24日(土)~6月25日(日)

福岡市西区 福岡市ヨットハーバー

国際 470 級

国際 470 級																								
順位	Seed#	Hull#	所属	所属 人、才生会	船名	クルー	1R		2R		3R		4R		5R		総得点		順位					
							最速	遅延	最速	遅延	最速	遅延	最速	遅延	最速	遅延	合計	ポイント						
1	22	4808	4592	源誠法人 才生会	和永 誠也	外園 潤平	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	4.0	1					
2	11	4683	4683	福岡大学	藤田 貴香	香山 梓輝	8	8	6	6	2	2	2	2	3	3	21	8	13.0	2				
3	1	4816	4816	日本経済大学	黒田 豊司	宮崎 朝光	2	2	2	2	14	12	8	8	2	2	26	12	14.0	3				
4	3	4800	4800	日本経済大学	永瀬 博哉樹	中村 夢太	3	3	3	3	16	14	6	6	4	4	30	14	16.0	4				
5	2	4813	4813	日本経済大学	北方 雄信	長谷部 聖大	5	5	5	7	7	3	3	5	5	8	8	28	8	20.0	5			
6	10	4712	4712	福岡大学	五嶋 香莉	足立 健太郎	7	7	4	4	4	4	4	4	10	10	5	5	30	10	20.0	6		
7	25	4541	4541	福岡第一高校/日本経済大学	中村 泰祐	安藤 司	4	4	8	8	7	7	7	9	9	6	34	9	25.0	7				
8	5	4758	4758	日本経済大学	田仲 晃樹	松尾 美輝	12	12	5	5	5	12	10	3	3	13	13	43	13	30.0	8			
9	23	4593	4593	(株)六広会Team Enterprise	植原 隆之助	木原 貴太	6	6	9	9	9	20	18	18	7	7	9	9	49	18	31.0	9		
10	12	4542	4750	福岡大学	幸野 剛太	阿部 一希	9	9	9	11	11	5	5	5	15	15	7	7	47	15	32.0	10		
11	4	4759	4759	日本経済大学	関 晋太	岸上 幸	13	13	13	13	13	8	DSQ	26	4	4	10	10	10	66	26	40.0	11	
12	24	4585	4585	福岡第一高校	橋本 和直	花田 佳	14	14	10	10	10	10	18	16	16	14	14	14	14	64	17	45.0	12	
13	6	4717	4717	九州大学	城 航	伊井 智憲	10	10	10	10	10	18	16	16	14	14	14	14	14	64	16	48.0	13	
14	14	4467	4467	筑波体育大学	北 隼斌	熊井 颯太	17	17	17	12	12	9	8	8	19	19	16	16	16	72	19	53.0	14	
15	17	4480	4480	西南学院大学	武田 晋大	金田 隆登	11	11	15	15	15	21	19	13	13	13	15	15	15	73	19	54.0	15	
16	15	4407	4407	筑波体育大学	堂江 夏希	中野 賢直	16	16	14	14	14	15	13	13	18	18	12	12	12	73	18	55.0	16	
17	16	4337	4337	筑波体育大学	竹口 千帆	山口 賢雄	21	21	16	16	16	6	6	6	20	20	18	18	18	81	21	60.0	17	
18	8	4556	4556	九州大学	伊藤 隼哉	永田 遼真	18	18	18	20	20	13	11	11	12	12	12	12	19	19	80	20	60.0	18
19	7	4597	4597	九州大学	黒 幸来	金子 剛也	15	15	15	18	18	23	21	21	17	17	22	22	22	93	22	71.0	19	
20	13	4423	4542	福岡大学	市田 龍平	竹瀬 健太	19	19	19	19	19	17	17	16	16	16	20	20	91	20	71.0	20		
21	19	3813	3813	西南学院大学	堀田 寛志	堀田 寛志	22	22	22	22	22	20	20	23	23	17	17	104	23	81.0	21			
22	21	4453	4453	長崎大学	小藤 直人	小寺川 希希	20	20	20	21	21	10	DSQ	26	22	22	21	21	110	26	84.0	22		
23	18	4287	4287	西南学院大学	星山 大輝	大平 彰佳	DSQ	DSQ	26	25	25	17	15	15	24	24	23	23	113	26	87.0	23		
24	20	4454	4454	長崎大学	植原 修太	加藤 大智	24	24	23	23	23	24	22	21	21	21	25	25	115	25	90.0	24		
25	9	4307	4307	九州大学	野田 将太郎	野田 晃	23	23	24	24	24	DSQ	DSQ	26	25	25	24	24	122	26	94.0	25		

2023.6.23(土) 14:00

レース委員長		進行/補修		2023.6.23(土) 14:00	
1	22	4008	4592	源誠法人 才生会	和永 誠也
2	11	4683	4683	福岡大学	藤田 貴香
3	1	4816	4816	日本経済大学	黒田 豊司
4	3	4800	4800	日本経済大学	永瀬 博哉樹
5	2	4813	4813	日本経済大学	北方 雄信
6	10	4712	4712	福岡大学	五嶋 香莉
7	25	4541	4541	福岡第一高校/日本経済大学	中村 泰祐
8	5	4758	4758	日本経済大学	田仲 晃樹
9	23	4593	4593	(株)六広会Team Enterprise	植原 隆之助
10	12	4542	4750	福岡大学	幸野 剛太
11	4	4759	4759	日本経済大学	関 晋太
12	24	4585	4585	福岡第一高校	橋本 和直
13	6	4717	4717	九州大学	城 航
14	14	4467	4467	筑波体育大学	北 隼斌
15	17	4480	4480	商学部大学	武田 晋大
16	15	4407	4407	筑波体育大学	堂江 夏希
17	16	4337	4337	筑波体育大学	竹口 千帆
18	8	4556	4556	九州大学	伊藤 隼哉
19	7	4597	4597	九州大学	黒 幸来
20	13	4423	4542	福岡大学	市田 龍平
21	19	3813	3813	福岡大学	堀田 寛志
22	21	4453	4453	長崎大学	小藤 直人
23	18	4287	4287	福岡大学	星山 大輝
24	20	4454	4454	長崎大学	植原 修太
25	9	4307	4307	九州大学	野田 将太郎

2023年度 九州学生ヨット選手権大会（団体戦）

2023年9月29日（金）～10月1日（日）

福岡市ヨットハーバー

最終成績

国際470級			1R		2R		3R		4R		5R		6R		7R			艇		団体		
順位	セーラNo	大学名	着	確 点 小計	着	確 点 小計	着	確 点 小計	着	確 点 小計	着	確 点 小計	着	確 点 小計	着	確 点 小計	着	確 点 小計	合計	順位	合計	順位
1	4816	日本経済大学	2	2 2	1	1 1	6	5 5 5	13	3 3 3	11	1 1 1	10	3 3 3	16	2 2 2	6	17	1	69	1	
	4813		4	4 4	3	3 3	/	7 7 7	/	2 2 2	/	4 4 4	/	4 4 4	/	1 1 1	/	25	2			
	4800		1	1 1	2	2 2	13	1 1 1	26	6 6 6	37	5 5 5	47	9 9 9	63	3 3 3	69	27	3			
2	4808	福岡大学	8	8 8	5	5 5	16	2 2 2	11	4 4 4	10	7 7 7	16	8 8 8	14	9 9 9	20	43	6	106	2	
	4750		5	5 5	19	4 4 4	/	3 3 3	/	1 1 1	/	6 6 6	/	5 5 5	/	6 6 6	/	30	4			
	4712		6	6 6	7	7 7	35	6 6 6	46	5 5 5	56	3 3 3	72	1 1 1	86	5 5 5	106	33	5			
3	4814	九州大学	7	7 7	8	8 8	26	9 9 9	24	7 7 7	30	2 2 2	23	11 11 11	33	4 4 4	27	48	8	192	3	
	4717		9	9 9	29	6 6 6	/	4 4 4	/	9 9 9	/	10 10 10	/	6 6 6	/	10 10 10	/	54	9			
	4597		13	13 13	12	12 12	55	11 11 11	79	14 14 14	109	11 11 11	132	16 16 16	165	13 13 13	192	90	12			
4	4467	鹿屋体育大学	3	3 3	9	9 9	30	8 8 8	30	8 8 8	29	8 8 8	29	2 2 2	19	7 7 7	31	45	7	193	4	
	4407		10	10 10	25	10 10 10	/	10 10 10	/	10 10 10	/	9 9 9	/	10 10 10	/	8 8 8	/	67	10			
	4337		12	12 12	11	11 11	55	12 12 12	85	11 11 11	114	12 12 12	143	7 7 7	162	16 16 16	193	81	11			
5	4453	長崎大学	16	16 16	13	13 13	42	15 15 15	42	13 13 13	42	18 18 18	47	13 13 13	45	12 12 12	45	100	14	314	5	
	4454		18	18 18	51	14 14 14	/	14 14 14	/	17 17 17	/	14 14 14	/	17 17 17	/	14 14 14	/	108	16			
	4582		17	17 17	15	15 15	93	13 13 13	135	12 12 12	177	15 15 15	224	15 15 15	269	17 STP 19	314	106	15			
6	4480	西南学院大学	11	11 11	UFD	UFD 19	52	16 16 16	51	15 15 15	50	13 13 13	46	14 14 14	44	11 11 11	44	99	13	327	6	
	4287		14	14 14	40	17 17 17	/	17 17 17	/	16 16 16	/	16 16 16	/	18 18 18	/	15 15 15	/	113	17			
	4308		15	15 15	16	16 16	92	18 18 18	143	DNF DNF 19	193	17 17 17	239	12 12 12	283	18 18 18	327	115	18			

レース委員長 岡村 勝美	レース日	29-Sep-23	29-Sep-23	30-Sep-23	30-Sep-23	30-Sep-23	1-Oct-23	1-Oct-23
	天 候	晴れ	晴れ	曇り	曇り	曇り	晴れ	快晴
プロテスト委員長 岡部 幸司	風 向(°)	350°	350°	300°	295°	310°	350°	345°
	風 速 (kt)	8kt	8-9kt	8-9kt	12kt	16kt	6kt	11kt
テクニカル委員長 吉川 巖一	スタート時刻	13:05:00	14:15:00	12:05:00	13:15:00	14:30:00	10:55:00	12:10:00
	最初の艇フィニッシュ時刻	13:44:30	14:54:59	12:42:45	13:46:52	15:05:05	11:36:30	12:55:22
記録部長 岩瀬 広志	レース終了時刻	13:50:48	14:59:36	12:48:40	14:01:52	15:14:10	11:44:38	13:01:45
	参加艇数	18 艇	18 艇	18 艇	18 艇	18 艇	18 艇	18 艇
	出走艇数	18 艇	18 艇	18 艇	18 艇	18 艇	18 艇	18 艇



2023/10/1 15:04

編集後記

編集者の都合により本年度【琴風51号】発刊が大変遅れてしまいましたが、本年も沢山の原稿をいただき賑やかな琴風誌ができました。

Web版では、写真をカラーで掲載しています。スマートフォン・PCで“長崎大学ヨット部琴風会”にアクセスいただき、楽しい写真をご覧ください。

皆様の寄稿を楽しみにしております。また、琴風誌について、ご意見・ご希望を是非お寄せください。

貝原 宗重

2024年10月記

十八親和銀行 大学病院前支店（普）30408 琴風会

ゆうちょ銀行 口座番号01890-2-42326 琴風会

琴風51号

印刷発行	令和6年11月吉日
発行所	長崎大学ヨット部琴風会
編集	長崎大学ヨット部琴風会事務局
印刷所	石田コピーセンター（株）長崎市飽の浦町7-1
連絡先	琴風会事務局 貝原宗重
	〒852-8061 長崎市滑石5-16-6
	 & FAX : 095-857-7973